

『大正新脩大藏經』底本・校本データベース

凡 例

(作成の目的と特徴)

『大正新脩大藏經』底本・校本データベース（以下「本データベース」と称す）は、『大正新脩大藏經』（以下「大正蔵」と称す）の第一期刊行事業において刊行された正蔵部分第1～55巻を対象に、『昭和法宝総目録』第1巻 pp.153～656 掲載の『大正新脩大藏經勘同目録』（以下「『勘同目録』」と称す）に記載される各経典の底本・校本に関する情報と、大正蔵第1～55巻の脚注に記載される底本・校本に関する情報を収集した上で、『勘同目録』・脚注双方の情報を対照させたものであり、各経典の底本・校本に関する情報を一覧できるようにし、大正蔵を利用した仏教研究に資することを目的とする。

『勘同目録』・脚注はそれぞれ一長一短のある資料であるが、データベース化して横断検索できるようにすることで、双方の欠点をカバーし、かつ比較対照しつつ、底本・校本の情報を知ることができる。

(データの収集と記載)

1 基本情報

「SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース 2018 版 (SAT 2018)」(<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>) より、経典番号、経典名等に関する情報をコピーした上で、収録巻次、部門、および大正蔵各巻の奥付より配本順次、出版年月日に関する情報を収集して記載した。

2 『勘同目録』

『勘同目録』著録項目①～⑦のうち、底本・校本にかかわる「④原本及校本」、「⑦備考」を対象にデータを抽出して、「底本/校本」、「④」、「⑦」、「⑦備考」の4欄に分けて記載した。

「底本/校本」欄には底本・校本の別を記載し、「④」欄には「④原本及校本」の情報を記載し、「⑦」欄には「⑦備考」のうち底本・校本の書誌に関する詳細情報を記載し、「⑦備考」欄には、「⑦備考」のうち底本・校本に関する欠本等の補足情報等を記載した。

3 脚注

大正蔵の第1～27回配本分は、各巻全頁の脚注を対象に、底本・校本の略号を収集し、「底本/校本」、「テキスト」、「備考」の3欄に記載した。第28～55回配本分は各経典の冒頭の脚注に記載される底本・校本情報を記載するとともに、第1～27回配本分同様、各巻全頁の脚注に記載される底本・校本の略号を収集し、「底本/校本」、「《新添部分》」、「テキスト」、「備考」の4欄に記載した。

「テキスト」欄において「〔 〕」付きで記載される書誌情報は、脚注に底本・校本が明記されず、『勘同目録』や他の脚注によって補足したものであることを示す。

脚注で〈原〉・〈甲〉・〈乙〉等、不特定のテキストを表記するための略号が使われている場合は、「《新添部分》」欄に略号を記載し、「テキスト」欄に書誌情報を記載した。

「備考」欄には、脚注に記載される底本・校本に関する欠本情報等を記載した。

(データの校正)

本データベース掲載の底本・校本データの校正にあたっては、一般財団法人人文情報学研究所の永崎研宣主席研究員のご協力を得て、「SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース 2018 版 (SAT 2018)」(既出) から抽出したデータとの照合を行い、データの校正に活用させていただいた。

(詳細情報の付与)

底本・校本のデータは、原文の表記ゆれ等により、遺漏なく検索結果を得られない場合がある。そこで、各テキストに対して標準名称、刊写にかかわる国・時代・年(西暦)・刊行者・刊者の別・所蔵者等の情報を詳細情報として追加することで、検索・利用しやすいようにした。なお、書写年等は、大正蔵各巻の巻末に掲載される「略符」に依拠して記載したものであり、必ずしも正確ではない。今後、原典調査によってデータを補正する必要がある。

(「SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース 2018 版 (SAT 2018)」へのリンク)

「基本情報」の「経典名」欄より、「SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース 2018 版 (SAT 2018)」(既出) の該当経典の冒頭を参照できるようにした。

(『勘同目録』IIF 画像へのリンク)

『勘同目録』の初版(家蔵)をデジタル撮影して IIF 化を行い、本データベース「詳細情報」の「勘同目録所在」欄より、『勘同目録』の該当箇所を閲覧できるようにした。

(西蓮社(旧増上寺報恩蔵)本の IIF 画像・目録データベースへのリンク)

大正蔵の底本・校本に採用された西蓮社本をスキャニングして IIF 化を行い、本データベース「脚注」の「テキスト」欄に表示した IIF マークより、西蓮社本の IIF 画像を閲覧できるようにした。また、「脚注」の「テキスト」欄に表示したテキスト名より、「西蓮社(旧増上寺報恩蔵)蔵嘉興版大藏經目録データベース」の「書名目録」に登録される該当経典の書誌情報を参照できるようにした。

(関連論文)

本データベースに関連する拙論は下記のとおり。利用にあたって適宜参照されたい。

『大正新脩大蔵経』の初版・再刊・普及版の刊行をめぐって」(『東洋文庫書報』第51号、2020年3月。<http://id.nii.ac.jp/1629/00007370/>)

『大正新脩大蔵経』の底本と校本一卷末「略符」・『大正新脩大蔵経勘同目録』・脚注の分析を通して」(東洋文庫リポジトリ ERNEST 2019年度科学研究費補助金 研究成果、2020年3月。<http://id.nii.ac.jp/1629/00007257/>)

(データの更新とデータベースの拡張)

本データベースのデータに対して、追加・修正等が必要となった場合は、随時データを更新する。また、今後、底本・校本として登録された各テキストについて、原本の書誌情報や本文の画像等を追加することで、データベースを拡張していく予定である。

上記に記したデータの更新とデータベースの拡張によって、本凡例も随時改訂することとする。比較的規模の大きな更新に当たっては、東洋文庫ホームページ上で告知等を行う。

最後に、本データベースの製作にあたっては、東京大学情報基盤センター助教の中村覚氏に、システム開発、『勘同目録』および酉蓮社本の画像のIIIF化などを実施いただき、全面的にご支援いただいた。ここに記して、深甚の謝意を表したい。

『勘同目録』のデジタル化にあたっては、株式会社カロワークスに撮影を依頼し、高精細画像を作成いただいた。大蔵出版株式会社には、本データベースの公益性をご考慮いただき、『勘同目録』のデジタル公開についてご許可をいただいた。酉蓮社本のスキャニング作業にあたっては、酉蓮社の青木照憲住職、細川聡洋副住職にひとかたならぬご厚情ご協力を賜った。ここに記して、関係各位に対し、厚く御礼申し上げたい。

本データベースは、JSPS 科研費 18K00073 の助成を受けたものである。

以上

公益財団法人東洋文庫 主幹研究員

會谷佳光

2020年8月19日記